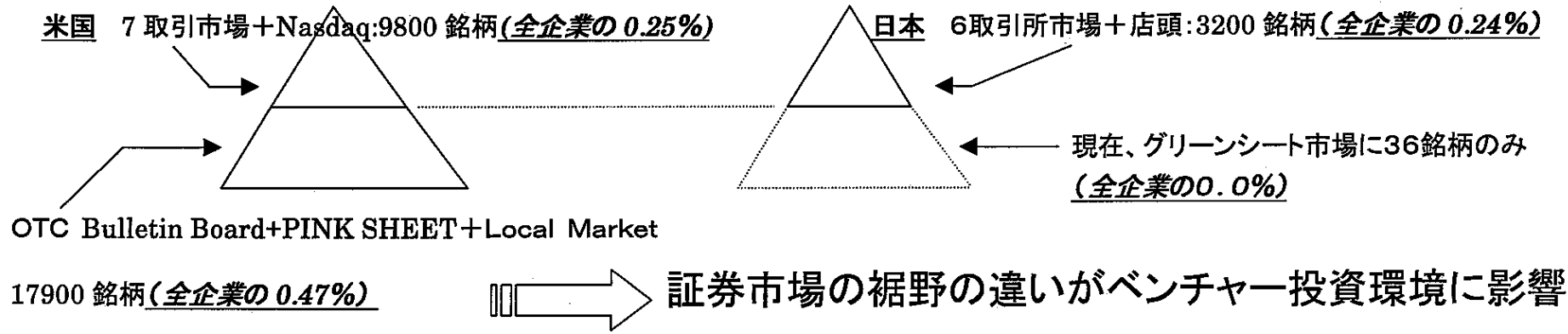


日本のベンチャーファイナンスの現状と課題

■ 日米の証券市場の比較



■ 日本のベンチャーファイナンスの現状と課題

	メリット	デメリット	評価
新興株式市場 [マザーズ・ナスダックジャパン・店頭市場]	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い投資家がベンチャー投資に参加できる ディスクロージャーが確保 資金流動化(転売)可 	<ul style="list-style-type: none"> 未公開投資の旨みであるキャピタルゲインを得られない 投資リスクが相当に高い 	<ul style="list-style-type: none"> 本来のベンチャーファイナンス(長期投資・育成・キャピタルゲインの獲得等)とは無関係の資金供給システム
投資事業組合 [1982年ジャフコ開発/1998年投資事業有限責任組合法]	<ul style="list-style-type: none"> 集合投資・プロ運用により比較的投資リスクが低い 投資先企業の育成と長期投資が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 出資単位が大口(1億) 小人数(49人以下)の私募 資金流動化(転売)は不可 ディスクロージャーが弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 本来のベンチャーファイナンスの特質を備えたシステムだが1300兆円の個人投資家の資金を糾合できない

証券市場を活用した新たな未公開ベンチャー企業への資金供給スキームについて

幅広い投資家が未公開ベンチャーに投資できる仕組みづくり

ディスクロージャーの徹底と投資家によるガバナンス／自己責任の体制

集合投資、プロによる運用と投資後の企業育成による投資リスクの軽減

長期投資を確保しつつ、中途換金など投資家の資金回収の要請にも対応

上場型会社型投資信託

- イギリスでは、ベンチャーキャピタルトラストとしてすでに普及。ロンドン証券取引所に市場開設
- 我国でも平成10年に上場型会社型投信解禁。不動産投信が議論の中心だがベンチャー投信も可能

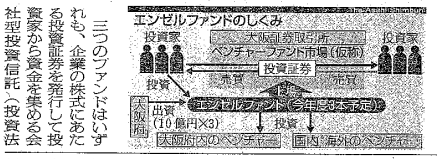
個人投資家の資金集めベンチャー支援

大阪府主導でエンゼルファンド

出資額は計30億円

投資家から広く集めた資金をベンチャー企業を支援する「エンゼルファンド」構想が大阪府の主導で動き出している。三井のファンドが来月から相次いで運用を始め、大阪府も30億円計の30億円の出資をする。大阪証券取引所のほか、ファンドの出資証券を取り扱う新市場をいっしょに構想を練り進める。自治体自らリスクを担って挑む新興企業育成政策は成功するのだろうか。

元本保証なくリスクも



この仕組みを利用するに当たっては、個人投資家が10万円の小額資金で公開のベンチャーに投資できる仕組みとなる。これは、ベンチャーキャピタルが通じた機関投資家や、ものごとを個人投資家による投資は事実上不可能だった。投資家はファンドの運用益に加え、ファンドが大株の新市場に上場された技術証券の譲渡による利益も期待できる。

三井のファンドの運用は、上場第一号となる流通の「エンゼルベンチ」証券投資は、10億

30億円の資金規模を目指す。うち10億円は大阪府が外部団体の財団法人を通じて出資し、残りは主に個人投資家対象になる。運用はスミダグループ（パル投資）と、東京の半信証券が、資金の半分程度を未公開ベンチャーに、残りを上場後5年以内の上場企業に投資。大阪府の出資は、府内の未公開ベンチャーに投資するが、出資の条件はいろいろある。府は証券投資の資金保証などは維持していない。

来月から運用開始

府の出資額は計30億円だが、個人投資家から資金を集めるのは資金総額が100億円規模のベンチャーに上場するまで。府は証券投資を通じて「エンゼルベンチ」の直接投資を8年後から本格化させてきたが、1社最寄りで1000万円、年間数社が1000万円、エンゼルファンド自体は大きく上回る資金規模になる。

府は30億円の出資で、市場を動かし始めるため、府は一定のリスクを「多量に担断した」（西土労働部）と説明。上場後、ファンドの投資証券市場の売却し、仕資金は回収する見込みだ。

だがエンゼルファンドは元本保証がないため、府の出資金回収の可能性がある。各ファンドの運用会社は運用成績の向上を目指す。一資金回収の「エンゼルベンチ」の運用は、市場のニーズに合わせた政策目標を明確に打ち出す必要がある。

ベンチャーファンド市場の発展開始を祝い、テープカットする大田厚江大阪府知事(右から2人目)ら。大阪証券取引所で15日、阪田英典等が



ベンチャーファンド市場の発展開始を祝い、テープカットする大田厚江大阪府知事(右から2人目)ら。大阪証券取引所で15日、阪田英典等が

「関西からベンチャーを」

「このように大阪府は、ベンチャーを育てたい。ベンチャーは、成長の速い企業で、関西の成長の原動力になる。大阪府は、ベンチャーを育てたい。ベンチャーは、成長の速い企業で、関西の成長の原動力になる。大阪府は、ベンチャーを育てたい。ベンチャーは、成長の速い企業で、関西の成長の原動力になる。」

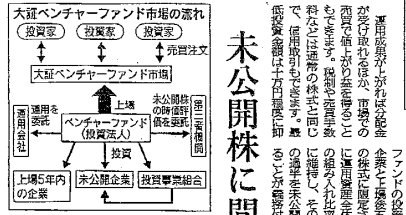
VB法人 大証に初上場

未公開株投資を拡大。VB法人は、大証に初上場し、未公開株投資を拡大する。VB法人は、大証に初上場し、未公開株投資を拡大する。VB法人は、大証に初上場し、未公開株投資を拡大する。

14.1.16 終値 1万500円

大証ベンチャーファンド市場

ベンチャーファンド市場の発展開始を祝い、テープカットする大田厚江大阪府知事(右から2人目)ら。大阪証券取引所で15日、阪田英典等が



未公開株に間接的投資

未公開株に間接的投資。ベンチャーファンド市場の発展開始を祝い、テープカットする大田厚江大阪府知事(右から2人目)ら。大阪証券取引所で15日、阪田英典等が

14.1.16 終値 1万500円

未来の成長資金で支援

15日、大阪証券取引所にて日本初の「ベンチャー市場」が創設され、売買が開始された。大阪府と大証が連携して創設された「ベンチャー・ファンド市場」は、株式公開していないベンチャー企業を投資対象とする。個人投資家の投資対象は、ベンチャー企業に限定される。将来の成長に期待を託すことになる。新市場が、ベンチャー企業の振興を多岐にわたる支援が期待される。

(日本 昭)

ベンチャー・ファンド市場

ベンチャー 新世紀



ベンチャー企業を支援する新しい市場が開かれた。初値が上昇、買手は由緒(左)と調音師大証(中)の15日、大証で。

第1期で、ボラに似た初値を、証券市場の研究者の予想は、大証のベンチャー・ファンド市場(ベンチャー・ファンド市場)が、先月の15日、大証で開かれた。ベンチャー・ファンド市場は、ベンチャー企業を投資対象とする。個人投資家の投資対象は、ベンチャー企業に限定される。将来の成長に期待を託すことになる。新市場が、ベンチャー企業の振興を多岐にわたる支援が期待される。

(日本 昭)

元氣出世 関西

大証と大阪府創設 14. 1. 19 読光 (昭)

府は、今回市場に投資の出資分を、いずれ市場で回収する方針。その際、新市場は、民間資金で支えられた市場である。

上場した投資家の投資のファンドを募集する川分陽二・フューチャーベンチャーキャピタル社長(右)が、ベンチャー企業を支援の資金面を確保することになり、大証が「ベンチャー市場」が創設された。ベンチャー企業も期待されていることだ。